

区分・種別	重要文化財(建造物)		
名 称	まなべけじゅうたく 真鍋家住宅 1 棟		
所 在 地	四国中央市金生町山田井		
所 有 者	真鍋 潤	管 理 団 体	
指定年月日	昭和45年6月17日		
解 説	真鍋家住宅はJR川之江駅の東に広がる山地のほぼ中央部、香川県境に近い標高約250mの「切山」^{きりやま}地区にある。昔からこの地区は平家落人の里とされていた。 敷地は南に小高い山地を背負い東西に細長く、主屋は敷地の南よりに北面して建っている。主屋は桁行5間（10.3m）^{けたゆき}梁間3間（6.1m）^{はりま}寄棟造、平屋建、茅葺、^{よせむねづくり ひらやだて かやぶき}平面積58.59㎡で、間取りはいわゆる「中ねま三間取り」、つまり土間（ニワ）に添って2室（マエとオク）、その奥に8畳のザシキをとる三間取りの型である。建築は江戸時代前期（17世紀中ごろ）のものとされ、民家としては愛媛県はもちろん、全国的に見ても非常に古い遺構である。しかも、妻側と裏側は総て土壁塗籠^{ぬりごめ}とした閉鎖性の強い形式で、この型は四国では東予を中心とする地方の民家の祖型として重要である。		

